

令和元年度 第5回

第三者評価検証委員会会議記録

確認欄	教育長	教育次長	係長	係

日時	令和元年9月24日(火) 10時30分～14時30分		作成者 事務局 総務教育係 小林義尚
場所	信濃町役場 公室 信濃小中学校 校長室	配付資料	会議次第、H30 学校要覧、評価検証の結果報告書、学校便り、全国学テの結果、年間行事計画表、日課と行事の現状と課題、コーディネーターから広がるポジティブ行動支援リーフレット、日課表案
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 齋藤委員長、近藤副委員長、加藤委員、藤倉委員 ・ 佐藤教育長、北垣内副校長、松木教育次長、小林総務教育係長 		
欠席者	なし		
内容	検討内容	検討結果	
協議事項	1. 開会	事務局 松木教育次長（正副委員長選出まで進行）	
	2. 挨拶	佐藤教育長 ◆昨年度の評価検証結果と改善提案による日課と行事を中心とした具体的な改善についてご意見をいただきたい。	
	3. 辞令交付	佐藤教育長より各委員へ交付	
	4. 正副委員長の選出	◆設置要綱第5条により委員長及び副委員長を選任 ・ 委員長 齋藤義益 ・ 副会長 近藤洋一	
	5. 協議 (1) 前年度の検証結果について	事務局：小林総務教育係長 ◆信濃小中学校評価検証の結果報告と改善提案書により、平成30年度本委員会の提案内容の確認	
	(2) 今年度の学校状況について	学校：北垣内副校長 ◆2019年度学校要覧、全国学力・学習状況調査結果について説明 ①小学校は、国語算数共に全国平均より上の正答率だった。 ②中学校は、国語算数共にほぼ全国平均の正答率だった。 ③6年生から9年生にかけて正答率の伸びが高い。小中一貫教育による	

<p>(3) 学校日課について</p>	<p>9年間で子どもの成長を見る効果ではないか。</p> <p>④質問調査の中で将来の夢や目標を持っている小学生の率が低い傾向にある。中学生は逆に夢や希望を持っている率が高い。</p> <p>事務局：小林総務教育係長</p> <p>◆信濃小中学校の日課と行事の現状と課題を資料により説明</p> <p>①初等部と高等部で授業時間が異なることで学校全体の日課が複雑になっている。</p> <p>②冬季の下校の安全対策として5時間授業の冬日課がある。</p> <p>③小中一貫教育校ならではの行事の多さがある。</p> <p>④冬日課と学校行事の多さから授業時間の確保が難しい。</p> <p>⑤学校状況調査の結果、他の小学校と比較して地域連携が少なく、逆に他の中学校と比較して地域連携が多い。</p> <p>【運動会について】</p> <p>①小中が一緒に参加する運動会は、地域の方々へ一貫教育の良さを可視化する大切な学校行事である。平日から土日に開催したらどうか。(委員)</p> <p>⇒運動会については、校内で小学校だけの参加にしたらとの意見が出ている。小中で一緒に運動会をすとか、しないとか議論をする前に、再度、運動会のねらいを考えてプログラムを考えたい。(副校長)</p> <p>②子どもの心を育てる学校行事になるよう「無理なく」「楽しく」「長く」できるように考えてほしい。(委員)</p> <p>【日課の変更について】</p> <p>①初等部を50分にした場合の休み時間がポイントになる。また給食の時間はそろえたい。(副校長)</p> <p>⇒湖南小中学校も今年度から小学生も50分授業へ変更した。5分延びる時間は担任の裁量で休み時間を早めるなどで対応している。(委員)</p> <p>②登校日数は年206日で県内では平均的な日数である。通年5時間授業にすると14日以上登校日数を増やす必要がある。(副校長)</p> <p>③高等部を45分にすることも可能である。湖南小中学校で中学生が45分授業だった時は、チャイムを2分前に鳴らすなど工夫をした。授業が始まるまでの準備時間を短くすることで十分対応できる。(委員)</p> <p>【学校職員の意識の共有について】</p> <p>①教科担任制は、学級担任だけでなく教科担任も子どもの成長を9年間で捉えた指導と責任感を持ってもらえるところにある。そのためには毎日朝夕の一斉の打合せを行って職員全員が情報を理解している必要がある。連携は情報を共有すること。(委員)</p> <p>⇒統合された学校である印象がある。職員間の壁がある。小中一貫教育の9年間の長いスパンで子どもの成長を考えられる利点をどう生か</p>
---------------------	---

	<p>(4) 学校見学</p> <p>7. 閉会</p>	<p>せるかが大切である。そのためには小学校と中学校が融合した義務教育学校としての先生の取組で学校は変わると思う。(副校長)</p> <p>【特別支援教育について】</p> <p>①信濃小中学校でもユニバーサルデザインの取組をしているが、どうしてもユニバーサルデザインだけではこぼれてしまう児童生徒がいるので、第2層支援として少人数での支援をしたり、第3層支援として個別支援をするなどRTIによる支援が必要になる。学習支援だけでなく問題行動に対する行動面へのアプローチとしてもポジティブ行動支援としてRTIによる支援が可能である。(委員)</p> <p>②特別支援によって、社会適応が苦手な子どもたちに自分なりの生き方ができるよう支援するか考えることが必要になる。(委員)</p> <p>【地域学習について】</p> <p>①地域行事への学校の関わりがお祭りなど宗教行事として捉えると難しくなっているのではないか。(委員)</p> <p>⇒個人の自主的な活動として公民館活動へ参加するなどしている。(副校長)</p> <p>②例えばナウマンゾウ博物館で学んだことを1年生から9年生まで比較できるような学習のまとめを継続して取り組んだらどうか。子ども自身が自らの学びの成長に気づく学習の深まりが可視化できる。(委員)</p> <p>◆学校の授業の様子を見学</p> <p>①クラブ活動で低学年に対する高学年の補助の姿が素晴らしかった。</p> <p>②児童生徒のあいさつができていて、生活指導ができて印象を受けた。</p> <p>③体育の後もジャージのまま授業を受けているのは良いのだろうか。同じく職員の服装についてもケジメが必要ではないか。</p> <p>事務局 松木教育次長</p>
<p>次回内容予定</p>	<p>・学校と事務局で初等部と高等部の日課をそろえる案を作成し、次回の委員会で検討する。</p>	
<p>次回会議日時</p>	<p>令和元年12月10日(火)午前11時～</p>	